

星空ガイド 10月16日～11月15日

よいの星空

10月16日22時頃
11月 1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

10月16日 4時頃
11月 1日 3時頃
15日 2時頃



[太陽と月の出入り(大阪)]

月	日	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
10	16	6:04	17:22	2:13	15:32	25.9
	21	6:08	17:16	7:09	18:24	1.3
	26	6:12	17:10	11:33	21:56	6.3
11	1	6:18	17:04	15:29	2:37	12.3
	6	6:22	17:00	19:00	8:10	17.3
	11	6:27	16:56	---	12:55	22.3
	15	6:31	16:53	3:07	15:17	26.3

十三夜

今月10月4日は中秋の名月でしたが、来月11月1日にもお月見の日があります。こちらは、「十三夜」「後の月」などと呼ばれ、旧暦の9月13日にあたります。この時期に収穫期に入る栗や豆を供える風習で、「栗名月」「豆名月」と呼ぶこともあります。十五夜とは違い、満月前の少し欠けた月を鑑賞します。



今年はお月見の時期が、少し遅いような気がします。旧暦では二十四節気の霜降を含む月が9月になります。10月20日の新月の日が、旧暦9月1日にあたります。

金星と木星が大接近

11月13日と14日の早朝、金星と木星という2つの明るい惑星が非常に接近します。

金星は今年4月頃より明けの明星として、夜明け前の空で明るく輝いていましたが、今、だんだん明け方に見える高度が低くなっています。一方、9月初め頃まで夕方に見えていた木星が、今度は明け方の空にやってきました。木星の明け方に見える高さは、日に日に高くなっていきます。この2つの惑星が、13～14日にかけて接近します。



日の出30分前の金星と木星の動き
(ステラナビゲータにて作図)

最も接近する時間帯は地平線下のため観測できませんが、13、14日とも2つの惑星の距離は角度にして、わずか0.6度ほどまで接近します。ただ夜明け前の低空ですので、早く見つけないと、どんどん辺りが明るくなってしまいます。

江越 航(科学館学芸員)

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
10	18	水	月と金星が明け方に接近
	20	金	●新月(4時)/土用の入/ 天王星が衝
	21	土	オリオン座流星群が極大のころ
	23	月	霜降(太陽黄経210°)
	24	火	月と土星がならぶ
	25	水	月が最遠(405,154km)
	27	金	木星が合
	28	土	●上弦(7時)
	28	土	●上弦(7時)
11	1	水	後の月
	3	金	文化の日

月	日	曜	主な天文現象など
11	4	土	○満月(14時)
	6	月	月が最近(361,438km) 月とアルデバランがならぶ
	7	火	立冬(太陽黄経225°)
	11	土	●下弦(5時)
	12	日	レグルスの食(0時32分出現)
	13	月	金星と木星が明け方の低空で非常に接近
	14	火	引き続き金星と木星が非常に接近
	15	水	月と火星が明け方にならぶ